



通巻 No.251 2024年9月29日

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL: 03-3623-6753 FAX: 03-5610-1732
<https://www.catholic-honjyo-church.org>

INDEX

- 「橙秋」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

「橙秋」

主任司祭 パウロ 豊島 治

十月のご挨拶を申し上げます。

秋分の日が過ぎたら急に気温が二十度前半になりました。聖堂前の桜も少し前から落葉しています。これからクリスマスにむけて道路から桜の枝をくぐって聖堂正面がはっきりみえることでしょう。体感ですが夏から急に冬を感じさせる環境です。

七月に司教団文書『見よ、それはきわめてよかった』総合的なエコロジへの招き』が発表されました。司教団文書は二〇〇一年に「いのちへのまなざし」を発行していますから、二十三年ぶりのよびかけです。

皆さんはこのタイトルにある「総合的なエコロジ」の総合的ということばが気になるのではないのでしょうか。教皇さまが以前からこの言葉を用いられるたびに、会議で「総合的に」にあたる表現をどう説明すればよいのかを苦労していると担当の大司教さまは話されていました。このタイトルには「インテグラル」と読み仮名風に文字がそえられています。初読のとき、私はコロナを経験した社会がどのような目線で次の世

界をみていくかの視座を与えてくださったと感じました。この文書を読み進んでいくうちに総合的と訳されていることばが導く世界観に至るようです。

タイトルになっている「見よ、それはきわめてよかった」は聖書でつかわれている、天地創造の中で出てくることばです。豊かないのちにあふれている世界、宇宙を眺めながら、喜びにあふれている神さまの心をよみとって聖書にこのことばを載せてくださいました。

キリスト教にとっていのちは与えられた尊い賜物です。それを感謝のうちに受け止め育（はぐく）むことは人間の責任であり、人類に託された大きな使命です。日本のカトリック指導者は司教団です。司教団はこの書をとおして、すべてのいのちを守る取り組みに参加するよう広くよびかけています。

神がつくられた世界のあるべき姿の実現を目標として歩みをすすめていくために、教皇さまの回勅「ラウダート・シ」に学び、神と他者と自然とそして自分との調和ある関係を追及して生きていくための呼びかけです。

日本の教会は一九八一年に聖ヨハネ・パウロ二世教皇が来日されたことを受けて一九八四年に日本の教会の基本方針を発表しました。そしてそれを実現する道を探るために招集された福音宣教推進全国会議の動きを通して日本の社会の中で福音の光が灯され、その光に導かれ一人ひとりの人間としての尊厳が守られるよう働く決意を著しました。

「いのちへのまなざし」は五年前に改訂されています。そして七月発行のこの文書はこのことをよく深めています。今年の秋は短い期間かもしれませんが一読の書にこの二冊を選んではいかがでしょう。

見よ、それはきわめてよかった
— 総合的なインテグラルエコロジへの招き



判型 B6
ページ数 160 P
価格 本体 800円
税込 880円



詳しくはこちら



判型 B6
ページ数 168 P
価格 本体 500円
税込 550円



詳しくはこちら